

# 北條、高橋 初V



表彰式で笑顔を見せる北條巧美と高橋佑子

**トライアスロン**  
日本選手権  
第24回日本選手権（日本ト  
ライアスロン連合、東京都  
・東京中日スポーツ主催、東  
京都共催）は14日、東京都お  
台場海浜公園周辺の特設会場  
（51・5・5・1・5・1・5  
・51・5・5・1・5・1・5  
・51・5・5・1・5・1・5）  
で行われ、男子は北條巧（日

体大）が1時間46分37秒で初  
優勝した。今夏のジャカルタ  
・アジア大会を制した古谷純  
平（三井住友海上）は21秒差  
の2位に入った。  
女子はアジア大会女王の高  
橋佑子（富士通）が1時間59  
分50秒で初の日本一に輝い  
た。2年連続3度目の優勝が  
懸かったリオアジアカネイロ五  
輪代表の佐藤選手（トリーシ

パートナース・NTT東日本  
・NTT西日本・チームケン  
ズ）は22秒差の2位だった。  
2年ぶりの8度目の頂点を目  
指した上田聖（ペリエ・グリ  
ンタワー・プリチストン・  
船毛インター）は6位。  
2020年東京五輪は同じ  
お台場会場だが、日本選手  
権とは異なるコースで行われ  
る。

【男子】  
①北條巧 1時間46分37秒  
②古谷純平 1時間47分54秒  
③上田聖 1時間48分16秒  
④佐藤選手 1時間48分37秒  
⑤藤原選手 1時間48分58秒  
⑥高橋選手 1時間49分19秒  
⑦山崎選手 1時間49分40秒  
⑧山崎選手 1時間49分40秒  
⑨山崎選手 1時間49分40秒  
⑩山崎選手 1時間49分40秒

【女子】  
①高橋佑子 1時間59分50秒  
②古谷純平 2時間00分11秒  
③上田聖 2時間00分32秒  
④佐藤選手 2時間00分53秒  
⑤藤原選手 2時間01分14秒  
⑥山崎選手 2時間01分35秒  
⑦山崎選手 2時間01分56秒  
⑧山崎選手 2時間02分17秒  
⑨山崎選手 2時間02分38秒  
⑩山崎選手 2時間02分59秒

## 戦略



ゴールする高橋佑子

「あと一歩」が続いてきた。過去6年連続表彰台で、2位が4度、3位が2度、輝かなかった女王の座へ。高橋は勝利の味をかみしめながら、観客とハイタッチをしながらゆっくりとゴールへ進んでいった。「ホントとしか、美事だった」「今年こそは」という思いだった。得意のスイムでは4番手。気持ちを切り替え、バイクで先頭集団へ。昨年優勝の佐藤ら3人とともに3周目に入った。大会を制し、東京五輪と「あと一歩」を期した。世界との差はあるけど、確実にステップアップしている。「リソルトと一歩ずつ。この歩みは2年後の東京へ」とつながっている。

## 高橋 意表突く早めスパート

「あと一歩」が続いてきた。過去6年連続表彰台で、2位が4度、3位が2度、輝かなかった女王の座へ。高橋は勝利の味をかみしめながら、観客とハイタッチをしながらゆっくりとゴールへ進んでいった。「ホントとしか、美事だった」「今年こそは」という思いだった。得意のスイムでは4番手。気持ちを切り替え、バイクで先頭集団へ。昨年優勝の佐藤ら3人とともに3周目に入った。大会を制し、東京五輪と「あと一歩」を期した。世界との差はあるけど、確実にステップアップしている。「リソルトと一歩ずつ。この歩みは2年後の東京へ」とつながっている。

## 気迫



バイクで力走する北條巧

8人の先頭集団を形成したバイクを終え、迎えた最後のラップ。真っ先に飛び出したのは22歳の北條だった。「勝ちパターン」と自負する戦略で勝負に打ち出る。力強い足踏みで加速。車上げた地力が大舞台で連打し、一気に後続を引き離した。

## 北條 得意パターン 逃げ切る

2周目に以降は脚がついてきた。気が迫ってペースを維持。思い描いた通りのレース展開で独走態勢を築き、そのまま逃げ切り成功した。ゴール付近で何度もガッツポーズ。「シンブルにうれい、日本一はすくく自慢にしたい。相道で涙を流すチームメイトの姿にも触れ、自然と胸が熱くなった。前回は4位、3度目の出場となる今大会は優勝に照準を

合わせてきた。「日本一の練習量を1年間やったら勝てると思った」。スイム、バイク、ランを午前中に2種目、午後1種目と振り分け、まんべんなく強化。車上げた地力が大舞台で生きた。元々は競泳選手だったが、埼玉・熊谷高時代にランとスイムの記録会に参加したことを機に、日体大で本格的に競技を始めた。それから約4年。国内最高峰の大会で頂点まで駆け上がり、2020年東京五輪の出場や24年パリ五輪の活躍を見据えている。「お台場」と「世界で戦える男」になれるようにしたい。新星が、まはやく輝きた。

（撮影：相道弘）

# ラン強化 硬い殻破る



▶②◀

もどかしい。2位が4度、3位が2度。ここ6年間の日本選手権の順位だ。昨年は同学年のライバル佐藤優香にランの鉄壁で離され、準優勝で悔し涙をのんだ。「リレエ」数年「あと少し」を語つた。自信を上げられる結果を残して次につなげたい。2020年の東京五輪を目指し、硬い殻を破ってみせる。

現在、複数の国際ランキングで日本女子のトップをひた走る。実力は確かだが、大事な試合で表彰台を逃すこともしばしば。「すべてで強化したい。いま一番必要なのはランかな」。昨年の日本選手権が、まさにそうだった。弱点を直すため、拠点となる

## 高橋 侑子 (27)



米田で昨冬から走り込む練習メニューを増やし、休日をつくらず動くようにした。シーズン中には異例ともいえる高地合宿を今年6、8月と2度も放行。その成果の一勝した。

米田で昨冬から走り込む練習メニューを増やし、休日をつくらず動くようにした。シーズン中には異例ともいえる高地合宿を今年6、8月と2度も放行。その成果の一勝した。

米田で昨冬から走り込む練習メニューを増やし、休日をつくらず動くようにした。シーズン中には異例ともいえる高地合宿を今年6、8月と2度も放行。その成果の一勝した。

端が表れたのは今夏のジャカルタユース大会の個人種目だった。スライム、バイクをトップ通過する

と、ランでもリードを守って初優勝した。

2年後に向けて練習強度を高めたとはいえず、「まだ効果は分かっていない」と成長の途上。指導を受けるポルトガル人のソウザ・コイチからは「オフシーズンは違うアプローチをしてみよ」と提案されており、今後も体と心を鍛える手だてを模索していく。

渡米して多国籍チームに加わったのは17年1月。リオデジャネイロ五輪代表を逃した反省から、常に有力選手と競い合える環境を求めた。ここでは新しい発見の連続。9月のワールドカップ威海大会(中国)では仲間が1、3位で表彰台へ。自身は連戦の疲れもあって7位だったが「自分にもできる可能性がある。次こそやってやる」という気持ちになった。日本選手権を前に強い刺激をもらった。

帰国はアジアで大会があるときくらい。実家で飼っている愛犬2匹の散歩が、つかの間の息抜きになる。故郷の空気は心を癒やすと同時に背筋を伸ばしてもくれる。

「私は東京生まれ、東京育ち。東京五輪は運命的であり、使命を感じ」。悲願のタイトル獲得で弾みをつけたい。(松山義明)

リレー混合高橋とジャカルタ・アジア大会で2冠の共同優勝。9月、パレンバンで

たかまじ、ゆう、富士通所属。法大時代に日本学生選手権4連覇。2016年世界大学選手権で優勝。17年アジア選手権、18年ジャカルタ・アジア大会はともいえる高地合宿を今年6、8月と2度も放行。その成果の一勝した。

14日にお台場海浜公園周辺で開催された「第24回日本トライアスロン選手権」で初優勝した三鷹市出身の高橋伸子選手（左）が16日、同市役所を表敬訪問した。

トライアスロンはスイム1・5時間、バイク4時間、ラン10時間を1人でこなし、タイムを競う。高橋選手は1時間59分50秒で、前回の優勝者に22秒差をつけて初優勝を果たした。高橋選手は現在、米田に練習拠点を置くが、三鷹に住む票があり、時間があれば市内で練習も行っている。8〜9

## 日本選手権V「努力実った」

三鷹出身 トライアスロン高橋選手



月のアジア大会で金メダルに輝いた際も、同市役所を訪問していた。

高橋選手は「これまでの努力が実り、やってきたことが間違っていないかったと確信が持てた。今回のレースと同じお台場を会場とする五輪に向け、自信を持って頑張る」とコメントした。

三鷹市役所を表敬訪問した高橋選手（左）。右は清原慶子市長（16日）＝三鷹市提供